令和３年度 教員免許状更新講習　シラバス

講習番号	５	講習名	【選択⑤】国語科「言語文化」「古典探究」に活かす古典文学研究の成果（１）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者		受講人数	講習形式	試験方法
西本寮子	広島キャンパス	６時間	中学校・高等学校国語科教諭		３０人	対面講義	筆記
開催日	７月３１日（土）			予備日	８月２４日（火）		

【到達目標】

日本の古典文学における「古典知」の形成と展開について、具体例をあげて説明できる。

【講習の概要】

教科書に採用されることの多い古典文学作品のいくつかを読み解きながら、作品が成立した当時の人びとの教養の一端について、白詩の受容と摂取を例として理解を深めることを通じて日本文学における「知」の継承と展開の様相について考える。

【講習の内容】

王朝人の教養基盤（１）―かぐや姫はどこからきたか―

『源氏物語』の作者に「物語の出できはじめの祖」と高く評価された『竹取物語』について、内容に加えて表現に着目し、その特徴について考察する。ひらがなの成立と展開および物語成立当時の文化的状況を視野に入れ、教養基盤としての白詩の受容と物語創作における摂取について考える。

王朝人の教養基盤（２）―『枕草子』から考える知識の活用と応用―

『枕草子』を宮廷女房の記録として読みとくことで、定子を中心とするサロンが目指した高度な文化世界のありようを紹介、サロンの牽引役としての清女の自覚と自負、葛藤の一端を垣間見る。

王朝人の教養基盤（３）―『源氏物語』を読むために―

引歌や引詩の手法が用いられ、教科書に取り上げられることの多い須磨巻の名場面を中心に、『源氏物語』の世界を鑑賞する。ことばによって紡ぎ出され、作者の創造力と読者の想像力に支えられている物語世界を味わいながら、共通映像として浮かび上がる知識と教養のありようを確認し、ことばがもつ「ちから」について考える。

古典文学の中の現代的課題―『とりかへばや』を例として―

このたびの改訂で教材として採用する教科書が増えた『とりかえばや物語』を取り上げ、その一部を読み味わう。『源氏物語』の流れを汲む物語文学としての特徴と、享受の歴史について理解を深めたうえで、物語世界が有している現代的課題に触れる。

＊講義を中心とするが、いずれの時間においても、受講者が相互に意見を述べる時間を設けたり、演習を交えることを予定している。

【備考】

講義で配付するテキストと関係資料、電子辞書を含む辞書の持ち込みを可とします。